

# フォーティーズ便り

発行: 横濱フォーティーズ野球倶楽部

報道部編集

http://www.office-thank.com/~forties/

## リーグ 第5週4月2日(曇りのち雨) 南農協グランド

### 第1試合【1回戦】湘南 1勝

大西 ハッスル満塁走者一掃  
右越え適時二塁打でダメ押し

計 安打									
湘南	0	0	0	0	0	1	0	1	(3)
浜友	1	1	0	0	0	4	X	6	(5)
(2) (0) (0) (1) (0) (2)									

勝 川崎 2勝  
敗 鈴木謙 1勝2敗

MVP: 大西 二塁打: 大西(湘南)  
V打点: 太刀岡



3打数3安打で3打点!  
打率もチームでトップの.455に押し上げました

大西

3安打猛打賞  
大西 直良 (湘南)

湘南				浜友							
守	氏名	打数	安打	打点	通算打率	守	氏名	打数	安打	打点	通算打率
2	犬塚	3	1	0	.273	2	松本	3	1	0	.143
D	太刀岡	2	1	1	.222	8	斉藤	2	0	0	.231
5	大西	3	3	3	.455	5	池	3	1	0	.444
1	川崎	3	0	0	.308	3	徳村	2	1	1	.600
7	内藤	2	0	1	.300	6	館	3	0	0	.333
8	岡崎	2	0	0		7	高橋	3	0	0	.357
3	丸木	2	0	0	.111	1	鈴木謙	3	0	0	.182
6	中村	2	0	0	.111	4	久保田	3	0	0	.286
D	森文	0	0	0	.143	9	小林一	1	0	0	.250
D	市川	2	0	0	.100						
9	柴田	2	0	0	.200						
4	玉木	1	0	0							
チーム計 24 5 5 .190				チーム計 23 3 1 .307							

守備位置はスタート時

投手	氏名	回数	安打	三振	四球	失点	投手	氏名	回数	安打	三振	四球	失点
川崎	3	1	3	3	0		鈴木謙	3	2	3	1	2	
森文	3	2	1	0	1		久保田	3	3	0	3	4	
丸木	1	0	1	0	0								
チーム計 7 3 5 3 1						チーム計 6 5 3 4 6							

湘南初回犬塚が内野安打で出塁し暴投と盗塁での無死三塁で太刀岡の右犠飛で先制。2回は2死から中村が敵失で出塁し二・三盗と三振がパスボールで得点を拾う。以降両チーム投手好投しての6回浜友は先頭の松本が三遊間を破り、内野ゴロでランナーが入れ替わって2死二塁で徳村の中前適時打で1点差に詰るも、その裏湘南は玉木が四球で出塁し犬塚の内野ゴロで浜友に指示ミス両方生かしさらに太刀岡のバンドヒットでの無死満塁で大西の走者一掃の右越適時打と内藤の左犠飛で一挙4点を奪う。少ないチャンスを実に得点に結び付ける試合巧者の差が出て湘南に軍配。

### 第2試合【1回戦】港南 1勝

港南 不戦勝  
港 不戦敗

港南、2回1死二、三塁で高須賀のサードゴロ一塁送球、一塁手岩辺捕球と同時に打者走者と激突、倒れて頭部を強打、救急車で病院へ。港1名負傷、秋葉監督付き添い、3回から猪股早退の為に参加10名中3名欠となり7名で2回表2/3で試合不成立で港南の不戦勝となった。

### 第3試合【1回戦】浜翔 1勝

浜翔 好調 勝って単独首位に  
有馬 投(3勝)打(V打)に活躍

計 安打									
浜翔	0	1	1	2	5			9	(8)
浜風	0	1	0	2	2			5	(7)
(0) (3) (1) (2) (1)									

勝 有馬 3勝1敗  
敗 持丸 1勝1敗

MVP: 有馬 二塁打: 秋山・有馬(浜翔)  
V打点: 有馬 持丸・窪田(浜風)



いやあ、ひどい天気だったからもっと早く終わってたかったんだけどよ~

有馬

浜風				浜翔							
守	氏名	打数	安打	打点	通算打率	守	氏名	打数	安打	打点	通算打率
7	弘中	1	0	0	.333	5	鈴木兼	1	1	1	.400
8	萩原	1	0	0	.188	9	時長	2	0	1	.300
6	三橋	2	0	0	.500	2	丸山	2	1	0	.364
5	窪田	2	1	2	.300	7	伊藤慎	1	0	1	.375
9	水品	2	1	0	.364	8	奥田	1	1	1	.667
1	持丸	1	1	0	.500	3	福島	2	0	0	.222
2	西岸	2	2	1	.375	D	菅	1	1	1	.375
3	石井	1	1	0	.357	6	鈴木隆	2	1	0	.333
D	小林孝	1	0	1	.500	D	中島	2	1	1	.500
4	吉田薫	2	1	1	.333	D	秋山	2	1	0	.400
D	松本猛	1	0	0		1	有馬	2	1	2	.571
D	鈴木義	1	0	0		4	茜屋	2	0	0	.091
D	浅井	1	0	0	.167	D	中筋	1	0	0	.200
						D	白戸	1	0	0	.125
チーム計 18 7 5 .325				チーム計 22 8 8 .345							

守備位置はスタート時

投手	氏名	回数	安打	三振	四球	失点	投手	氏名	回数	安打	三振	四球	失点
持丸	3	5	1	0	2		有馬	3	4	1	1	1	
萩原	1	0	0	4	2		白戸	10/3	3	0	4	4	
三橋	1	3	1	4	5		時長	1	0	1	1	0	
チーム計 5 8 2 8 9						チーム計 5 7 2 6 5							

浜翔2回奥田が左前にワンヒットワンエラーと内野ゴロの三塁で菅の右犠飛で先制。その裏浜風は2死から持丸の左越二塁打(通算200本)と西岸の中前適時打で同点、尚二塁で石井の左前打は西岸ホーム寸前アウトし勝越しならず。3回浜翔も中島左前打と秋山の右越打で中島一気にホームを狙うもアウト。暴投での三塁に有馬の内野ゴロがタイムリーエラーとなり勝越し。4回は4死四球に敵失が絡み2点を奪う。その裏浜風弘中・萩原四球と窪田の右越2点適時二塁打で追い上げるも水品の中前打でホームを欲張り同点機を逃がす。浜翔5回3敵失に有馬の左中間適時二塁打と4連続四死球等で一挙5点を奪い、最後の浜風の反撃も時長が併殺に打ち取って逃げ切る。

通算200安打達成 持丸 末博(浜風)  
2回2死後有馬投手から左越二塁打を放って記録達成

## 昭和の激動期を共に力強く歩んだフォーティーズ

## 1979年(昭和54年) 4チーム誕生

- 入部者約30名【3期生】岡崎四郎(湘南)・小林一三六(浜友) 2名
- 2月始めからA,Bの2班に分け港南台駅前広場を中心に港南区内の小中学校の校庭・日飛グラウンドなど転々と移転しながら練習試合を行う。
- 9月「広報よこはま」の募集で会員数も一挙に60名を越えて固定的なチーム編成の必要が生じ、A,B,C,Dの名称で各15人の4チームが正式に誕生。
- 10月千葉県の若潮会の招待で千葉に遠征。その模様など神奈川TVにフォーティーズの活動ぶりが放映された。10月さらに港南台駅から奥に入った鎌倉街道沿いの高台にある公団住宅用地の広場に移動し主要グラウンドに。高圧線の鉄塔が目印となり「鉄塔下」と愛称された。グラウンド確保は早い者勝ちで、夜の明けぬ暗いうちから陣取りのためバックネットを張って確保し、多少の雨降りも気にせずやめば全員バケツリレーで水を汲み整備し相互に対戦した。
- 役員制定(11月) 初代会長 戸田利男氏 事務局長 松沢 豊氏 記録 中村泰而氏

## 1980年(昭和55年) リーグ戦が始まる

- 入部者約20名【4期生】茜屋重雄(浜翔)・大西直良(湘南)・奥田正信(浜翔)・森文男(湘南)・植木忠夫(港南) 5名
- 4月6日A~Dの4チームによる初の公式リーグ戦が前後期2期制、各期各チーム3回戦総当たりが鉄塔下グラウンドをフランチャイズにして開始。同時に中村氏によって各試合毎、各自のスコアが記録され公式戦の記録としてスタートし現在も脈々と続いている。
- 初の制覇は前・後期共にBチームが優勝。(前期8勝1敗.889/後期6勝2敗1分.750)
- 9月「広報よこはま」の募集で約20名入部し新会員を中心に1チーム編成しこの年度は練習に専念。
- 11月 Dチーム主体にチーム編成し初の信州へ遠征。リンゴ狩兼坂城町二九会(小林一の同窓生)と坂城町村上小学校校庭で親善試合を行う。当時寿野球会長の豊城氏と会長宅を訪ねて親と子程歳の離れた孫同士とは知らなかった。のちの寿野球大会参加の足掛りとなる。
- リーグ戦終了後、A,B,C,Dチームはそれぞれ中部・南部・西部・東部にチーム名改称。新チームは港南と名付けられた。

## 1981年(昭和56年) 名称もあらたにチームでリーグ戦

- 入部者約10名【5期生】西岸正次(浜風) 1名
- 3月1日5チームによるリーグ戦開始(各チーム8回戦総当り年間32試合)西部・東部・港南は新しいユニホームを作成。
- リーグ戦のかたわら千葉若潮会と戸塚区の昭和電工グラウンドで再三対外試合を行う。
- 10月2回目の信州遠征に2チーム派遣。上山田温泉チームの地元寿野球チームと親善試合を行う。
- 浅井良樹氏のデザインによるフォーティーズ野球倶楽部旗が完成。リーグ戦優勝は南部チーム。(18勝12敗2分.600)
- 11月倶楽部創立5周年を記念して昭電グラウンドで試合を兼ねてリーグ戦の表彰式を行う。
- 鉄塔下グラウンドが公団住宅の建設が始まり使用不可能となるため半田晋吾氏の紹介で弥生台の地越水薫春氏所有の農地兼山林地を来年度から借り受けることに決定。

## 1982年(昭和57年) 弥生台にフランチャイズ完成

- 入部者約35名【6期生】市川征司(湘南)・塚田忍治郎(港南)・西川捷一(浜風)・門脇常雄(湘南)・中筋宏(浜翔) 森安弘(港)・小林清一(港)・中村利雄(湘南)8名
- 1~2月の2ヶ月間弥生台の越水氏の山林を全会員総出の人海戦術で整備。誰もが長年使用出来るものと信じて冬の寒さもものともせず汗と泥にまみれ、バットをクワとスコップ等に持ち替えて、山を崩し竹の根を掘りおこし切り開き、造成された中高年者に相応しい理想の、両翼65m、中堅80m、高さ5mのネットを張りめぐらしたグラウンドが出来上がる。堂々の専用球場を通称「弥生台」と命名。以降昭和62年春までフォーティーズのリーグ戦が展開される。
- 3月7日完成された弥生台球場で5チームによる各チーム11回戦総当りの年間44試合毎週ダブル戦の強行軍が展開する。会員ほとんど40才代若さと馬力でのスケジュールを見事に消化する。リーグ戦優勝は港南チーム。(29勝10敗5分.744)
- 10月完成を祝い「広報よこはま」の募集で会員数も120名を超える。
- 12月役員会で来年度から現在の5チームから新たに「やよい」「みどり」「かもめ」の3チームを新設して8チーム体制をとることに決定。
- 約120名の会員組織に増大し、倶楽部運営の円滑化を図るために、新たに運営委員会がスタート。各チーム1名の委員によって構成され、初代委員長に小林一三六氏、記録員に武井照長氏が選出された。

## 1983年(昭和58年) 8チームによるリーグ戦始まる

- 入部者約10名【7期生】有馬一興(浜湘)・谷口俊二(浜翔)2名
- 運営委員会において、今年度からリーグ戦の表彰制度を体系化して確立する事を討議決定。年令によるハンディを解消するため年令層別ランキング制を採用、現在に至る。
- 3月6日リーグ戦が新に編成された8チームにより、各チーム4回戦総当り制年間28試合が開始。以降平成15年度までこの体制でリーグ戦が繰り広げられる。
- 外野に芝植が行われ根付くまで浦和のパイロット、箱根、二宮の各グラウンドを転戦した。
- 5月第8回寿野球全国大会に岩田昇監督率いる総勢16名が初参加して初戦松坂クラブ(三重)と対戦6対1で快勝。Kブロック決勝戦で千葉若潮市川と対戦し6対6の引き分け。ジャンケンで敗退するも初参加でアツパシな健闘だった。
- 10月信州上山田愛友会チームを横浜に招待。親善試合を行う。リーグ戦優勝は南部チーム。(17勝8敗3分.680)
- 12月表彰式を兼ねて第1回家族合同運動会を華々しく開催して、家族孝行をちょっぴり実行。尚大出俊氏(当時社会党)より優勝カップ寄贈され以降優勝チームに贈られる。

入部者 名【 期生】の後の名前は現在現役で活躍している会員、又( )内は現所属チームです。  
又機会があったら1984年(昭和59年)以降を振り返ってみます。